

### 平城宮西北部の調査(平城第642次)

今回の調査は、佐紀池にほど近い、閑静な住宅街が広がる平城宮西北部でおこないました。奈良文化財研究所では、平城宮内の調査を積み重ねてきましたが、今回の調査区周辺では調査の件数が少なく、いずれも比較的小規模な発掘調査にとどまっていることから、平城宮西北部の実態についてはほとんどあきらかになっていないのが現状です。

今回の調査区は75㎡で、これまでの平城宮西北部の調査の中では比較的規模の大きい調査になりました。調査区の南部で、灰色を基調とした粘性の極めて強い粘質土が何層にも堆積した沼状遺構がみつけられました。土中からは木質遺物や葉が溜まった状態で出土するとともに、2点の木簡が出土し、うち1点は郷里制下の荷札木簡(養老元年(717)～天平12年(740))とみられます。

以上のことから、調査区南部の奈良時代の景観は、水の流れが滞った沼のような低湿地であり、調査区の東にある佐紀池が、調査区まで広がっていた可能性が考えられます。

いっぽう、調査区の北半では奈良時代の整地土を確認しましたが、顕著な遺構はみられませんでした。池あるいは低湿地が広がる岸部で、構築物をつくりにくい土地だったようです。平城宮西北部はどのように利用されていたのか、その実態解明に向けて、今後も少しずつ調査・研究を積み重ねていきたいと思っています。

(都城発掘調査部 垣中 健志)



木簡2点が出土した沼状遺構(西から)